

令和4年度における学長表彰対象者について

対象者	団体	人数	所属・職名等	選定理由
津田 明彦		1	理学研究科 准教授	<p>津田明彦氏は、「ハロカーボンを原料とする光オン・デマンド有機合成法を用いる機能性フッ素化ポリウレタンの開発」に成功し、産学官による強力な連携体制を構築し、その社会実装を達成した。</p> <p>同氏が開発した光化学反応は、サイエンスとして新しく、また極めて大きな産業利用価値を有している。カーボンニュートラルおよび持続可能な社会の実現に向けて、我々の生活を支えるポリウレタンやポリカーボネートなどのポリマー材料や、界面活性剤、医薬、農業などを製造する有機化学工業に「革新的イノベーション」を生み出した。同氏らの研究グループは、本学連携推進課と協力し、国内有数の化学企業であるAGC(株)および三菱ガス化学(株)を主たる連携企業とし、JST (A-STEP シーズ育成タイプ) および経産省(安全保証貿易管理)からの支援を受けて、産学官の連携によって、その産業利用と世界展開に向けた研究開発を精力的に行ってきた。2019-2021年度に実施したJSTプロジェクトにおいて、当該化学反応およびその周辺技術に関連する数多くの発明を生みだし、それらの知的財産権を世界で確保し、社会利用に不可欠なコア特許網の構築を達成した。本プロジェクトで新たに開発したフッ素化ポリウレタンに良好な市場調査結果が得られたことで、当該光反応を用いるポリマーの工業生産に向けて、本年度から企業内での生産プロセス開発が本格始動した。一方、公開可能な発明を順次、産学連名での学術論文として発表し、アカデミアおよび産業界から高い評価を受けている。本プロジェクトにおける業績は顕著であり、社会への多大な貢献が認められ、本学の発展に大きく寄与した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
サンテレビジョン震災映像公開検討チーム (代表者：井庭 朗子)	○	5	附属図書館専門職員 ほか教職員4名	<p>本学は令和3年7月2日に、株式会社サンテレビジョンと包括連携協定を締結しているが、同社が阪神・淡路大震災の取材時に撮影した大量の映像の、附属図書館震災文庫デジタルアーカイブによる保存と公開は、協定における主要な取組である。</p> <p>附属図書館では、阪神・淡路大震災の被災地の中にある図書館の責務として、「震災文庫」を平成7年10月30日より公開し、関連資料の収集・提供を継続してきた。また、デジタルアーカイブでの公開にも、当初より注力している。ここにおいて同社と連携する意義は大きく、地元ローカルテレビ局でなければ撮影することができなかった、震災当時の多数の代替性の無い貴重な映像を保存・公開し、後世に残し継承しつつ発信することが可能となった。特に公開において重要となる、被写体の権利関係の映像確認においては、当初より人文科学研究科地域連携センターの教員の協力を得て、デジタルアーカイブ学会が検討を進めていて後に成立した「肖像権ガイドライン」を参考に、学界の最新の成果を反映して実施した点の特筆される。教員が映像を場面ごとに目視確認して点数化作業を実施したうえで、公開可否の判断を、サンテレビジョンも交えて行った。</p> <p>このように、サンテレビジョンと本学の連携事業を着実に進めつつ取組の成果を発信しており、また発生から27年経過した震災の記録と記憶・教訓を次代に伝え、災害史・地域史や防災教育に対して今後も大きく寄与するものである。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
神戸大学大学院保健学研究科認知症予防推進センター (代表者：古和 久朋)	○		保健学研究科教授・ 認知症予防推進センター長ほか19名の教職員及び事務部職員一同	<p>我が国の認知症患者数は現在も増加の一途をたどっており、医療のみならず社会全体に影響を及ぼす喫緊の解決に取り組むべき課題である。その原因疾患として最多の患者数を占めるアルツハイマー病の根本治療薬はその効果が限局的であることから保険適応未承認であり、仮に承認されたとしても失われた認知機能の回復は見込めず本課題の抜本的な解決にはならない。</p> <p>認知機能の低下は不可逆的な神経細胞死によることから、神経細胞死を防ぎ、認知機能の低下を予防することが、現時点でとりうる最も現実的かつ有効な解決手段と考え、令和元年(2019)4月に認知症予防推進センターを設立した。本センターは研究部門、社会実装部門、教育部門より構成され、研究部門では認知症予防に有用な介入方法に関するエビデンス構築と軽度の認知機能変化を容易に評価し得る方法論の確立のための研究を遂行中である。令和2年度(2020)よりAMED予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業の一環として認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究を丹波市において遂行中である。またオムロンヘルスケアとの共同研究により記憶に特化した自己診断法を確立し、現在製品開発にむけたプロトタイプによる検証を進めている。</p> <p>社会実装部門では、研究成果に基づいた認知症予防を実現するための介入教室と学習講座及び認知機能や身体、アクティブライフ度の評価をセットにした「コグニケア」活動を展開中である。兵庫県内を中心に拠点集型の教室に加えて、令和3年(2021)10月にMoff社と事業統合し、「eコグニケアpowered by Moff」と名付けたオンライン教室も展開中で、日本全国のみならず海外からも参加している。また兵庫県は県内の市町における認知症予防関連の事業を実施するにあたり「コグニケア」を導入することで、その事業費を補助する施策を打ち出した。実際に淡路市、新温泉町、小野市、加古川市、三田市、多可町で共同事業の準備が進められている。</p> <p>このように、センター設立後3年の間に、研究、社会実装を車の両輪として活動しいずれも目覚ましい成果を挙げている。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

令和4年度学長表彰（財務貢献者） 報償対象者一覧

No.	所属	職名	氏名	備考
1	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	近藤 昭彦	
2	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	白川 利朗	
3	大学院医学研究科	教授	野津 寛大	
4	大学院医学研究科	非常勤講師	錦織 千佳子	
5	先端バイオ工学研究センター	教授	蓮沼 誠久	
6	先端膜工学研究センター	教授	松山 秀人	
7	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	永田 真	※
8	大学院医学研究科	教授	古屋敷 智之	
9	分子フォトサイエンス研究センター	教授	小堀 康博	※
10	大学院保健学研究科	教授	古和 久朋	
11	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	森 康子	
12	大学院医学研究科	教授	仁田 亮	
13	大学院工学研究科	教授	荻野 千秋	
14	産官学連携本部	学術研究員	竹内 俊文	
15	大学院医学研究科	教授	榎本 秀樹	
16	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	内田 和久	
17	大学院医学研究科	特命准教授	水谷 清人	
18	次世代光散乱イメージング科学研究センター	教授	的場 修	
19	大学院医学研究科	教授	児玉 裕三	
20	数理・データサイエンスセンター	教授	木村 建次郎	
21	先端バイオ工学研究センター	特命准教授	川口 秀夫	
22	大学院医学研究科	教授	南 康博	
23	大学院医学研究科	教授	内匠 透	
24	大学院医学研究科	教授	小川 渉	
25	大学院理学研究科	准教授	身内 賢太郎	
26	大学院医学研究科	特命教授	高井 義美	
27	医学部附属病院	教授	佐々木 良平	
28	計算社会科学研究所	教授	上東 貴志	
29	大学院工学研究科	教授	寺田 努	
30	大学院工学研究科	教授	丸山 達生	
31	大学院医学研究科	特命教授	的崎 尚	
32	大学院医学研究科	教授	青井 貴之	
33	大学院工学研究科	教授	鈴木 洋	
34	大学院医学研究科	教授	鈴木 聡	
35	大学院理学研究科	教授	林 祥介	
36	大学院人間発達環境学研究科	教授	青木 茂樹	
37	大学院人間発達環境学研究科	教授	源 利文	
38	分子フォトサイエンス研究センター	教授	立川 貴士	
39	大学院医学研究科	教授	村上 卓道	
40	大学院農学研究科	教授	杉本 幸裕	

No.	所属	職名	氏名	備考
41	大学院工学研究科	教授	神野 伊策	
42	大学院システム情報学研究科	教授	坪倉 誠	
43	大学院医学研究科	准教授	小林 千浩	
44	大学院工学研究科	教授	今井 陽介	
45	数理・データサイエンスセンター	教授	小澤 誠一	
46	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	勝二 郁夫	
47	大学院理学研究科	教授	牧野 淳一郎	
48	大学院システム情報学研究科	教授	田中 成典	
49	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	辻野 義雄	
50	産官学連携本部	特命教授	長廣 剛	
51	大学院医学研究科	教授	松本 理器	
52	大学院工学研究科	准教授	塩澤 大輝	
53	大学院農学研究科	教授	土佐 幸雄	
54	大学院工学研究科	教授	森井 昌克	
55	大学院工学研究科	准教授	田中 勉	
56	大学院工学研究科	助教	杉本 泰	
57	大学院海事科学研究科	教授	大澤 輝夫	
58	大学院システム情報学研究科	准教授	藤井 信忠	
59	医学部附属病院	准教授	山下 智也	
60	数理・データサイエンスセンター	教授	中村 匡秀	
61	大学院医学研究科	准教授	藤岡 一路	
62	大学院理学研究科	助教	鈴木 州	
63	大学院理学研究科	教授	深城 英弘	
64	大学院国際文化学研究科	准教授	北田 亮	
65	先端バイオ工学研究センター	准教授	石井 純	
66	大学院人間発達環境学研究科	准教授	蘆田 弘樹	
67	大学教育推進機構	非常勤講師	齋藤 政彦	
68	大学院医学研究科	教授	久保 亮治	
69	大学院工学研究科	准教授	大森 敏明	
70	大学院医学研究科	特命准教授	森田 圭紀	
71	大学院システム情報学研究科	教授	天能 精一郎	
72	大学院工学研究科	教授	南 秀人	

※の方は財務貢献者の代表として表彰式に出席